

33 スポーツを核としたまちづくり

- 00 基本認識
- 01 これからの静岡市のスポーツ行政
- 02 ユニバーサルスポーツの聖地化
- 03 静岡市におけるパラスポーツの推進

○スポーツ行政全体については、次に記載

0-1 基本認識 静岡市のスポーツの目指す姿

0-2 基本認識 以前の静岡市のスポーツ行政

1-1~2 これからの静岡市のスポーツ行政

○ここでは、まちづくりの観点からのスポーツについて記載

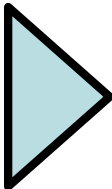
(アリーナ・スタジアムについては、「32.アリーナ・スタジアム」に記載)

スポーツが持つ力で、誰もが健康で豊かな生活を実現する

《目指す姿の実現に向けての課題》

※2021年度静岡市スポーツ活動・生涯学習に関する市民意識調査から分析

- ①スポーツ未実施層へのアプローチが求められている
→誰もがスポーツを気軽に楽しむための取組が不足している
- ②スポーツに触れる機会が不十分
→スポーツ以外の側面からのアプローチが不十分
- ③スポーツを気軽に実施するための環境整備が求められている
→日常的にスポーツを実施するための環境が整っていない
- ④スポーツを支えることへの興味・関心が低い
→スポーツイベントの中止等による機会損失

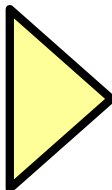


《課題解決に向けた考え方》

- ①ライフスタイルに応じたスポーツの推進
→日常の中で誰でも簡単に実施できる取組など、年齢や性別、障がいの有無等に関わらず多様な世代が参加できるスポーツの機会提供とスポーツ教室・イベントの分かりやすい情報発信
- ②スポーツを通じた地域・他分野との連携
→共創によるスポーツを実施するきっかけづくりや付加価値の提供
- ③スポーツを支えるための場づくり
→誰もが日常的に気軽にスポーツが楽しめるような環境整備
→ハードとソフトの二方向から「場」を整備し、スポーツをするきっかけや活躍の「場」として提供
- ④スポーツを支えるための人づくり
→市民、民間団体等を巻き込んだスポーツに関わる人材の育成や資質向上

《国や静岡県の計画から捉える課題》

- ⑤スポーツ産業・ビジネスでの視点によるスポーツ振興が求められている
【国】第3期スポーツ基本計画「スポーツの成長産業化」
【静岡県】スポーツ推進計画「地域特性を活かしたスポーツによる地域と経済の活性化」



- ⑤スポーツを地域経済の成長産業として位置づける
→静岡市スポーツ推進計画に、「スポーツ産業・ビジネスによる地域の活性化」の視点を取り入れる
→「スポーツを核としたまちづくりの推進」をこれからの方向性とし、観光・健康・教育などと横断的に関わる産業として、戦略的に取組を推進する
→スポーツがもつ社会的効果を最大限活用し、社会全体の力を活用して、社会問題の解決や地域活性化に繋げる

0-2 基本認識 以前の静岡市のスポーツ行政

- 第4次静岡市総合計画に基づく取組の推進
スポーツの力で誰もが健康で心が満たされるまちづくりの推進
- 静岡市スポーツ推進計画に基づく取組の推進
 - ・第1期(2015～2022)
「市民一人1スポーツ」の実現に向けたソフト・ハードの取組の推進
 - ・第2期(2023～2030)【実施中】
「する・みる・ささえる」の複合的な楽しみを生活の中に取り入れる「静岡型スポーツ・イン・ライフ」の推進と市民スポーツの実施促進

ソフト面

- ・地域スポーツの推進 ・各種競技団体や指導者への支援 ・ホームタウンチームへの支援、連携
- ・学校主体の部活動 など

ハード面

- ・スポーツ施設の管理、改修(体育館や総合運動場) ・学校等施設の利活用 など

- 行政主導により取組を推進
- 健康増進のためのスポーツ振興が主目的

《課題》 スポーツが持つ社会的効果の最大限の活用

これまでの健康増進のためのスポーツ振興に加え、スポーツが持つ「社会的効果」を最大限活用することが求められており、これを戦略的に進めることが急務。

社会的効果の例…①健康の維持・増進 ②教育・人づくり ③共生社会の実現
④地域経済・観光への波及 ⑤防災・安全への貢献 等

1-1 これからの静岡市のスポーツ行政

スポーツは 大きなビジネスチャンス秘めている
社会課題の解決や地域の活性化に繋がる



スポーツの持つ社会的効果を
「地域を支え、未来を創る力」と
スポーツ推進計画に位置づけて取り組んでいく

スポーツが持つ「社会的効果」を最大限活用し、地域の活性化や市民生活の充実につなげるとともに、市民や民間事業者（団体）などの社会全体の力を活用して、スポーツを核としたまちづくりを「共創」で進める。

《これからの取組》

①他分野との融合による取組の実施

⇒パラスポーツ等を通じた障がい者への理解促進及び多様性の尊重

②ソフトとハードの連携強化による将来的なニーズを見越した施設の整備

⇒年齢・性別・障がいの有無等に関係のない「誰もが楽しめる場」としての施設を整備

⇒災害時の活用を前提とした施設の整備

③学校主体の部活動から地域のクラブ活動に移行

⇒公共施設・市民・民間団体で持続可能な基盤体制を共創

④次世代アリーナやスタジアムの整備によるまちづくり

⇒より多くのスポーツ観戦機会の提供 及び 施設を中心としたスポーツツーリズムの推進

⑤スポーツの成長産業化

⇒DX、観光、医療などとの連携により、収益性の高いスポーツビジネスへの発展

⇒ホームタウンチームとの協働による地域課題解決を通じて、プロスポーツへの関心を高め、観戦客増加による消費拡大、多様なスポーツ関連ビジネスを通じた経済循環を生み出す

1-2 これからの静岡市のスポーツ行政

- これからの静岡市のスポーツ行政の基本的考え方
「スポーツを通じて、市民の健康を増進するとともに地域経済を活性化するまち」の実現
- その実現に向けて、行政だけでなく、市民、民間事業者、スポーツ団体等、多様な主体がそれぞれの強みを持ち寄り、共創していく
- 5次総の考え方を踏まえ、静岡市スポーツ推進計画を見直す
- 計画は実行することが重要
アリーナ・スタジアムも含めて様々な取り組みを実行し、結果を出す
- 次のページ以降には、それらのうち、主な取り組みを示す
(学校部活動の地域移行については、「80.教育」の「7 部活動の地域展開」で示す)

2-1-1 ユニバーサルスポーツの聖地化(庵原エリア)

《0. 基本認識(背景)》

これまでの静岡市の取り組み

- 静岡市では、『第2期静岡市スポーツ推進計画』の基本施策に「障がいのある人のスポーツ活動の推進」を掲げ、障がいのある人でも参加できるスポーツ事業を充実させ、心身の健康を維持するとともに、障がいのある人となない人が一緒にスポーツを行うことで、スポーツを軸とした共生社会の実現に取り組んできた。
- ・全国障がい者スポーツ大会選手選考/派遣
 - ・障がい者スポーツ教室事業の実施
 - ・パラバドミントンサポートシティ推進事業の実施
日本パラバドミントン連盟との「パラバドミントンサポートシティに係る覚書」の締結(R2～)
 - ・車いすバスケット男子日本代表合宿の誘致

パラスポーツを取り巻く課題

- ＜社会的意義と時代性＞
- ・パラリンピックなどの注目大会の開催を背景に、パラスポーツへの関心が高まっている社会情勢にある。(1960年ロンドン五輪で初めてパラリンピックが開催、その後1964年東京五輪に繋がり、2024年パリ五輪では、オリンピックに引けを取らない高い注目を集めており、社会の関心が非常に高まっている。)
- ＜パラスポーツの課題＞
- 【1】障がい者に配慮された設計のスポーツ施設が少ない。
 - 【2】アクセスの壁:障がい者にとっては「移動」そのものがハードル
 - 【3】天候による影響を受けやすい
 - 【4】障がい者スポーツイベント・大会の開催場所・機会の不足

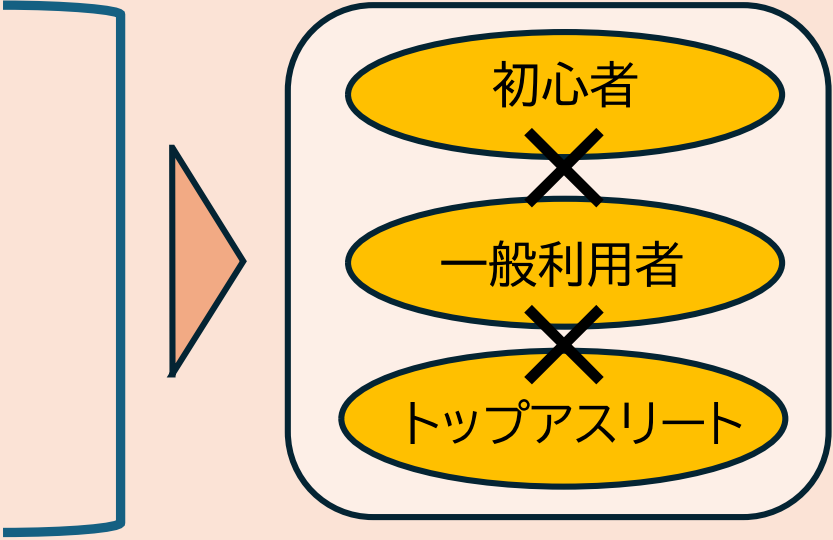
庵原エリアの持つポテンシャル

- ・エリア内に「IAIパラスポーツパーク」、「清水ナショナルトレーニングセンター」、付近に「清水清見潟スポーツセンター」が存在し、スポーツの普及・振興に取り組まれている。
- ・距離的にも10分圏内で結ばれるコンパクトなエリアであり、かつ、車移動が主である障がい者にとって、関東圏から車で2時間以内という好立地。全国初の障がい者スポーツ推進エリアとして、聖地化のポテンシャルを有している。

《1. 各施設の役割》

各種パラスポーツをエリア内で補完可能に

- 清水庵原球場＋屋内運動場
障がいの有無や年齢を問わず誰もが安心して利用できる、多目的屋内スペース。パラスポーツやリハビリスポーツ、ジュニア世代のトレーニングや遊びによる体づくりなど幅広く活用。
- 清水清見潟公園スポーツセンター
アリーナ・プールを兼ね備えた屋内複合施設。誰もが利用できる施設。
- IAIパラスポーツパーク
バリアフリー設備を備えた競技用施設。大会・イベント開催と共に、地域と連携した啓発活動を展開。
- 清水ナショナルトレーニングセンター
トップアスリートの育成拠点。ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、誰もが利用できる施設。



《2. 将来像》

当該エリアを中心に面的に整備することで、年間を通じてパラスポーツの大会・教室・合宿が定着する。市民の共生意識の醸成、次世代教育への効果が創出される。清水は「競技者だけの場」ではなく、「誰もが参加できるスポーツ文化(ユニバーサルスポーツ文化)の発信地」となる。インクルーシブな社会のモデル都市として、スポーツと健康、福祉、観光、教育を融合させた地域活性化にもつながる。

2-1-2 ユニバーサルスポーツの聖地化



2-1-3 ユニバーサルスポーツの聖地化

清水区の主なスポーツ施設

2027年4月供用開始予定



設備：人工芝コート

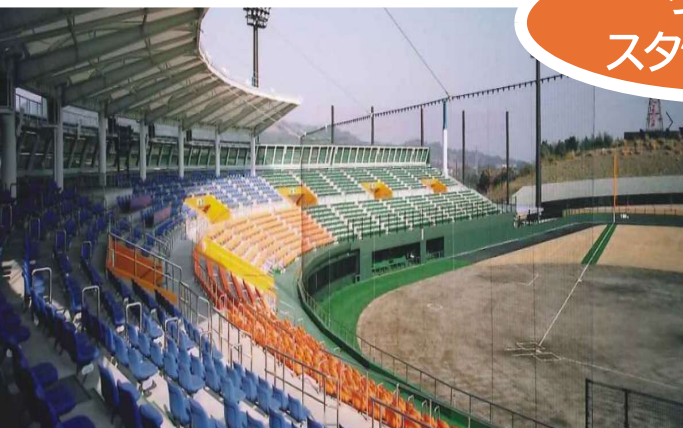
清水庵原
屋内運動場

清水ナショナル
トレーニングセンター



設備：アリーナ、芝グラウンド、
プール、ジム、宿泊施設等

ちゅ〜る
スタジアム清水



設備：本球場、第2球場

清水清見湯公園
スポーツセンター



設備：アリーナ、プール、
トレーニング室、軽運動室

IAI
パラスポーツパーク



設備：全天候型屋根付きコート、
屋外人工芝コート

IAIスタジアム
日本平



設備：球技場、庭球場

清水総合運動場



設備：アリーナ、陸上競技場、
武道場、アーチェリー場、
弓道場、屋外プール

だれもが、いつでも、どこでも楽しめる「ユニバーサルスポーツの聖地」しずおかへ！

スポまち！表彰2025
静岡市

＜目標＞ 計画期間：～2031年3月31日

「全国からパラスポーツを楽しむ人が集まるまち」を目指します！

- 清水区庵原地区内の各スポーツ施設を誰もが安心して利用できる施設に改修（ハード）。
- パラスポーツを支援する人材や団体を統括する組織化を支援し、誰もがスポーツを楽しめる環境を整備（ソフト）。
- 市民や民間事業者との共創により、スポーツが持つ力で社会的価値と経済的価値を結ぶ好循環を生み出す。

【庵原地区内のスポーツ施設利用者数：20,000人→36,000人、日本パラスポーツ協会公認指導者登録者数：54人→108人】

＜PRポイント＞

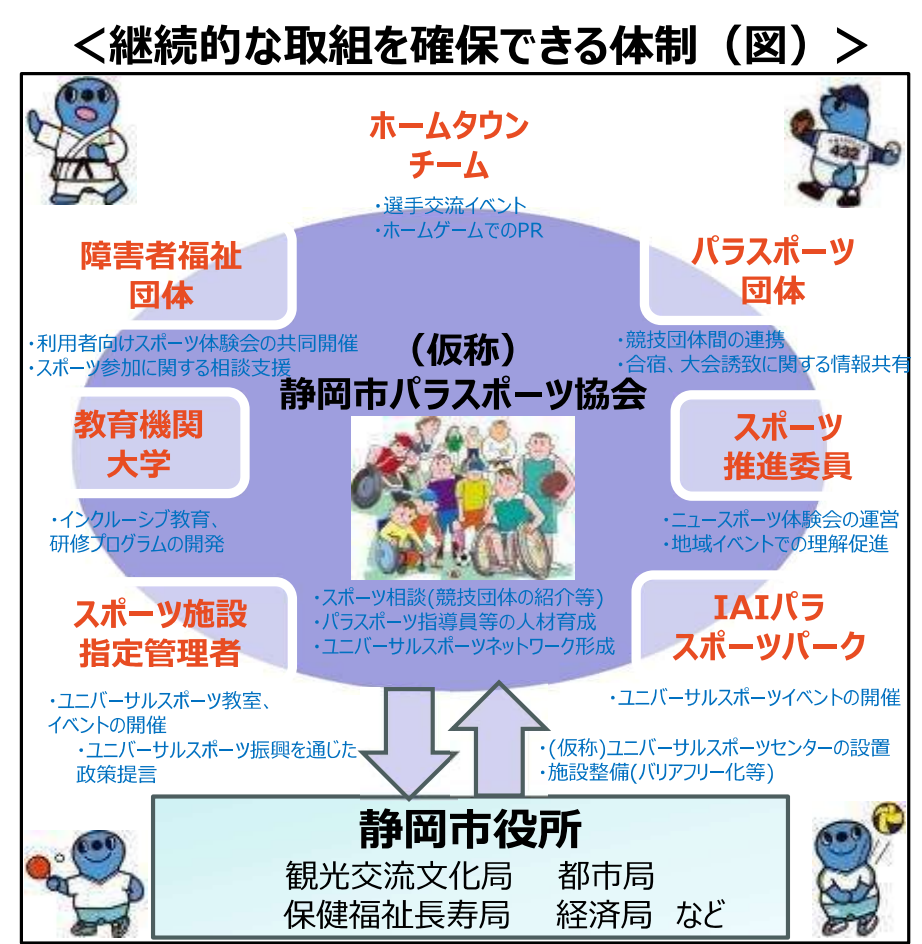
●静岡市はスポーツに最適な環境！

静岡市には、清水エスパルス(J1)やベルテックス静岡(B2)をはじめとする複数のプロスポーツチームがあり、市民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」など、様々な形で楽しめる環境があります！

その中でも清水区庵原地区には、プロ野球球団の本拠地である「ちゅ～るスタジアム清水」をはじめ、宿泊施設を備えたナショナルトレーニングセンター、パラ優先施設IAIパラスポーツパークなど、多彩な施設が集積！

●地区全体でパラスポーツ対応施設を整備！

同地区の「交通アクセス」「既存施設」といった強みを活かし、各施設を面的に整備することで、**全国初となる“ユニバーサルスポーツ推進エリア”**としてまちづくりを推進！

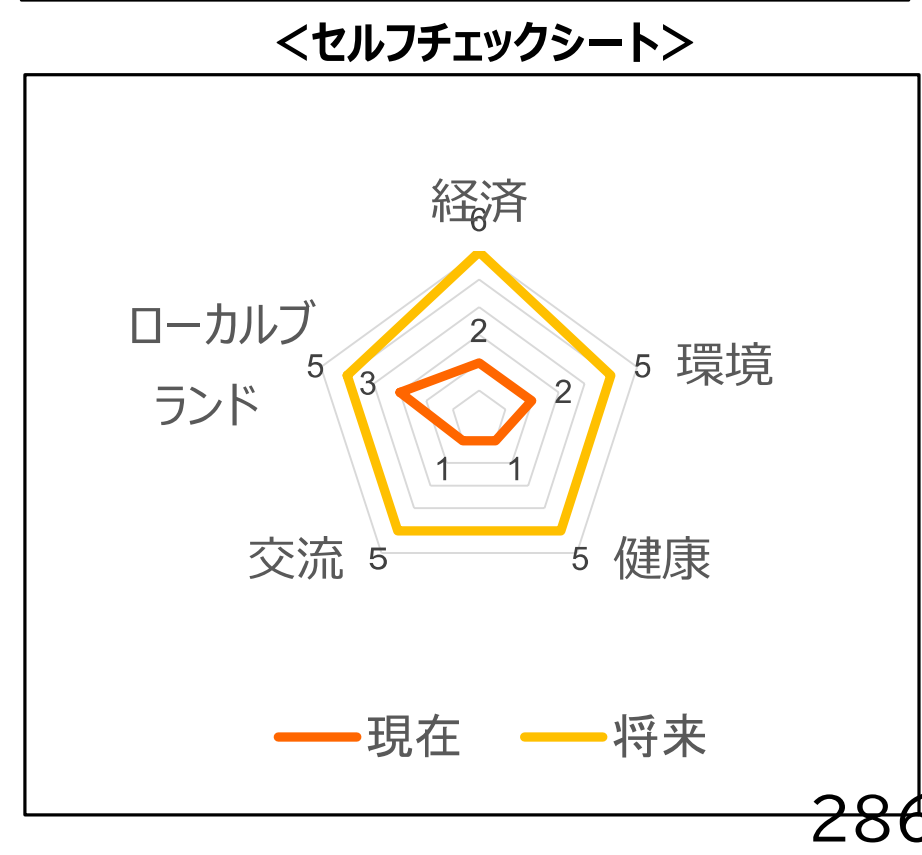


＜現状・課題・総合的な取組体制＞

■パラスポーツに取り組める施設が不足している	■パラスポーツ統括団体の不在	■市民のパラスポーツに対する関心不足
エリア内の施設整備 ※完成イメージ  ちゅ～るスタジアム清水 障がいのある方が、優先的に利用できる屋内運動場を新設（2026完成予定）  清水ナショナルトレーニングセンター ユニバーサルスポーツの拠点及びプロフィットセンター化するための機能改修（2025検討開始）	組織化と指導員増加 ※イメージ  パラスポーツ統括団体の組織化 パラスポーツに取り組む人、パラアスリートを目指す人等を支援する体制を構築  パラスポーツ指導員の増加 パラスポーツの指導や、市民の障がいに対する理解を向上するため、指導者を増員	イベントや大会の開催・誘致 ※2025.10.12実施  ウォーキングフットボール大会 年齢、性別、障がいの有無に関わらず誰もが参加できるユニバーサルスポーツ大会・体験会の開催 ※2025.11.5～9実施  パラバドミントン国際大会 国際大会・全国大会及び合宿を誘致し、選手による体験教室等を開催

静岡市をユニバーサルスポーツの聖地に！

スポーツと産業、健康、福祉、観光、教育を融合させた地域活性化と共生社会の実現に繋げる。



2-2-1 「静岡市清水ナショナルトレーニングセンター」の運営の見直し

～「年間約2億円の指定管理料を払う」施設から
「運営によって利益を生み出す」施設への転換を目指す～

【現 状】

- センターは、天然芝グラウンド、人工芝コートのほか、トレーニングルーム、体育館、プール、宿泊施設、レストランなどを持つ総合的なスポーツ施設で、県内外の年間約20万人に利用されている。
- 開館から25年が経過し、施設の老朽化が顕在化するとともに、宿泊施設が複数人部屋など、施設環境面が現代の利用者ニーズに適合していない。

【課 題】

- (1)現状の運営のままでは毎年約2億円の指定管理料が発生し、将来に渡り行政負担が伴う。
- (2)施設単体の運営であり、周辺のスポーツ施設や観光施設等との連携を活かしきれていない。
- (3)施設の老朽化とともに、現在の利用者ニーズに合っていない。(宿泊施設の複数人部屋や駐車場台数等)
天然芝グラウンドが芝の養生により使用できない一定期間中、利用者が減少し、収益に繋がらない。
- (4)現在の運営方法(通常指定管理者制度)では、収益と顧客満足を向上するための柔軟な運用に限界がある。

静岡市清水ナショナルトレーニングセンター 施設概要

所在地	静岡市清水区山崎1487-1		
供用開始年	2001年		
敷地面積	67,719㎡		
駐車台数	約150台		
年間利用人数	2023年	182,434人 日帰り利用者	17,779人 宿泊利用者

天然芝グラウンド

人工芝コート

トレーニングルーム

体育館（空調付き）

アクアトレーニング

宿泊施設

レストラン

2-2-2 「静岡市清水ナショナルトレーニングセンター」の運営の見直し

【見直しの基本的な方向性】

民間のノウハウや創意工夫を整備・運営に活かし、運営によって利益を生み出す施設を目指す。

(1) ユニバーサルスポーツの聖地化における中核施設

清水区庵原エリアに位置する総合的なスポーツ施設であることから、ユニバーサルスポーツの聖地化における中核施設と位置付け、だれもが、いつでも、どこでも楽しめるスポーツを通じた共生社会の実現を目指す。

(2) 収益性の高い施設へ

施設を競技力向上に資する環境にすることに加え、利用者の満足度を高めることにより合宿・キャンプ地としての魅力を高め、積極的な利用者誘致を通じて、「指定管理料を払う」施設から「運営によって利益を生み出す」施設への転換を目指す。

(3) 地域経済の活性化

施設の利用者増と、周辺施設・地域との連携の相乗効果により、地域経済の活性化に繋がる施設運営を目指す。

(4) 必要な施設改修

施設新設や利用者のニーズに合わせた最新トレーニング技術に対応する設備の導入を進めるとともに、近隣への新たな施設整備も含めた施設の増改築・修繕により、競技力の高いアスリートに対応可能な施設環境を整備する。

(5) 民間事業者の運営力・新たな展開力の活用

民間事業者の知見（運営力・新たな展開力）を最大限に活用し、より効率的で効果的な運営方法とする。



3-1 静岡市におけるパラスポーツの推進

《1. 現状と課題》

(1) ハード(施設・設備)

- ・市内・県内に障がい者専用または優先の公共スポーツ施設がない。
- ・各スポーツ施設のバリアフリー対応に差があり、地域や競技種目にばらつきが生じている。
- ・大会を誘致する際の競技施設・宿泊施設の数が不足しており、効果的な誘致に至っていない。

(2) ソフト(人材・交流)

- ・県内のパラスポーツ認知度は96.8%で、全国調査結果の72.4%を大きく上回り、認知度は高い状態である。ただし、高い認知度に対してパラスポーツに関心がある人は48.2%(2022年:53.2%)と低い結果となっている。(2024年度静岡県アンケート調査結果から)
- ・関心がない主な理由として「パラスポーツを身近な場所でやっていない」、「スポーツ自体に興味がない」、「身近にパラスポーツに関わっている人が少ない」などが挙げられており、「知っている」から「関わる」への接点が身近な場所にないことが課題となっている。

(3) 組織(機能・支援)

- ・スポーツをしたいと思っている障がい者の人数や希望種目、整備が必要な環境等のニーズを把握できていない。
- ・パラスポーツを始めたい人に対する情報の集約・発信ができておらず、相談する場所もない。
- ・支援が十分でなく、継続的な活動や仲間づくりができる環境に乏しい。

《2. 外的環境》

静岡県における障害者スポーツセンター機能の整備に向けた基本構想(2024年2月)、IAIパラスポーツパーク開業(2024年12月)、静岡県における障害者スポーツセンター基本計画(2025年2月)、一般社団法人ユニバーサルスポーツしずおか設立(2026年2月)

《3. 今後の取組》

(1)パラスポーツの「受け皿」となる拠点の整備(ユニバーサルスポーツの聖地化)

(2)所管施設のバリアフリー化の推進

所管施設の改修にあわせ、バリアフリー化を進める。

【効果】 誰もが安心して利用できる環境が整い、市民と競技者、支援者との接点づくりや交流の機会の創出につながる。加えて、施設の利便性の向上により、指導者・支援者の参画促進や活動機会の拡大が期待される。

(3)障がい者スポーツの下支えとなる体制構築

指導機能(個別指導、各種教室)、相談機能(スポーツ相談、福祉相談)、ハブ機能(情報収集・発信、人材育成、ネットワーク)等の役割を担う「一般社団法人ユニバーサルスポーツしずおか」の活動を支援する。

【効果】 身近にスポーツに取り組める場が確保され、生活の質(QOL)の向上や孤立感の解消、仲間とのつながりの創出が期待される。パラスポーツへの理解が深まり、インクルーシブなスポーツ文化を形成できる。